JRPみえぼん
百万石
50-1
(夏き講座特集)
1980-8

伊勢市古市町
東　洋介
百万石編集部

○○○○○ 道場例会 ○○○○○

近ごろ 鈴鹿の箱 津の箱
五ケ所の箱と、各ハコに於て
ミニ例会が 治癒に行われて、
結構、ケッコウ。益々、
治癒にやって下さい。
そしてそれとは別に
「道場例会」なるものを
開くことにしました。
名の示すとおりの例会に、
なるか ならぬか、
オノオノガタの
心意気次第でござる。

古市公民館 7月理事会に於ける 伊勢湾支部長 中西一樹氏あいさつ

年の功で支部長になりました。半年支部長です。皆さまから面白れて 気楽にやりたいということで 新しい支部の誕生をみました。（写真のことも、写真以外のことも、皆さまとの長いつきあいを思うと、いろいろご批判もあるでしょうが、よろしく願いたいと思います。

小さな支部を作りましたが、皆さまと競走するとか そんなのでなく、私たちのためになるということでこういう行動に出ました。皆さまの気持を さかなでしたのでは ないかと思うのですが、自分の気持をいつわりたくないので、こういうふうに させていただきました。

新支部のことは なんでも 話しあいでやって行こうと相談しあっています。

ところで今夜の理事は出にくかったですねエ。

当分はなりをひそめてシコシコやります。どうぞご健康に気をつけて ご精進を。

これが皆さんへの最後のことばとなります。

（以上は 当日メモしたものを、中西氏の諒解を得て。　東）

「激撥」新美君の熱いたより
夏期講座の報告

アイッ、シニエウ ヘイッテ、アタマ サエタノカ、コノメイデン。
サンネン イッショニイテ チットモ シラナンダ カレノイケメン。

いよいよ夏の忙しいシーズンも 正念場を迎えようとしています。永田屋では 倉庫にビールが山積みになっていることと思いますが、お元気でやっておられるでしょうか。

上高地では8月に入っても 梅雨のような日が続き、最盛期に入っても 割合い人出が増えず、そのおかげで 2日間ほど休みをとれましたので、それでは と高尾山へ いそいそ出かけました。

山奥に住んでいると、なかなか写真の相手も見つからないし、世間のこともあまり伝わってこないので せめてこの機会にたっぷり写真の話でも楽しもうと思って行きました。

スミオさんにも会ったし、和ちゃんにも アットンにも 吉吉くんにも会いました。なつかしい顔を久しぶりに拝めました。

さて夏期講座の内容ですが、参加者は 年々減りながらも 今年はたいへん熱の入った、ユニークな内容だったと思います。話題は この6月に、視点展や キャパの写真展と時を同じくして開かれた ある大規模な写真展を めぐって展開しました。アフリカの カウ地方の「ヌバ族」という原始共同体のような人々の姿をモチーフにして撮った写真展で、作者は ドイツ人で レニ・リーフェンシュタールという、読みにくい名前の78才になる女性の写真家なのです。僕もまだ、この人の写真は少ししか見ていないのですが、なぜかとても気になっていました。

知己先生いわく「紀信の激写もフッ飛んでしまう ダイナミックな映像美」が東京の写真界の話題をかっさらいました。ところがこの人なんと40数年も前に あのヒットラーの命を受けて作った「民族の祭典」「ベルリンオリンピック」の監督でもあるということなのです。

そんな訳で この写真に対する熱論は 長く、続くのですが、その深い内容は また別の機会ということにして、この日はいくつかの 大切な話がきけました。でもそれもまた別にすることにして、とにかく参加した人はたいへんな得をした すばらしい2日間でした。

話題、といえば そうそう、おもしろい話がふたつほど出ました。それは三重の城主のスゴイひげと、百万石の人気についてです。

このふたつは組織拡大に苦しむ他支部にたいへん印象深かったようです。百万石は、読者の先生がたの宣伝もあって かわいそうな(?)ことに発行部数がまた1部ほど増えてしまいました。ご苦労さまです。すでに篤トンがみんなからお金を預かっていきましたので、使いこまれないうちにもらって下さい。

知己先生は議論のまとめの中で、厂史の転換期における ドキュメンタリーフォトについて述べると共に、写真を撮っていく上での ひとりひとりの創造理念（理論とはちがう）をしっかりとしていくことと、視点ということばの先見性について語ってくれました。

どちらも自分でじっくり考えていかなければいけない問だいですが ひとりだけではやっぱりむつかしいし、多くの人のいろいろな批評があって、視点もまた確かなものになっていくような気がします。

ところで「ヌバ族」の写真集は近く購入する予定ですので、秋になったら是非いちど見て下さい。

レニ・リーフェンシュタールの写真のすごさ、美しさは なにか別の意味があるように思います。生きていく人間の心が少しも伝わってこないのです。というより、作者は彼らの心とのきずなを一切断ち切って、非情なレンズの中に「ヌバ族」の動物的な美のみを表現しようとしているよう思えてしかたがないのです。

この日の熱論のせいで 僕は最終のケーブルの時間になっても席が立てず、とうとう夜中に、灯もない高尾山の雨の参道をひとりで下山するはめになりました。

それにしても 東京の実川さんや、いろいろと僕に暖かいアドバイスをしてくれた皆さんに感謝しています。

そうそう大切なことを忘れていました。この日行われた恒例の会員投票では わが三重支部は参加者5名のうち「ブッ」を持ってきたのは3名で しかも得票は、いずれもゼロという 80年代の見透しを暗くしそうなスタートとなりました。でも夏の陣にはいつも弱い 三重ですから ぼつぼつ冬の陣をめざして エンジンがかかってくるのではないかと思っています。僕も来年こそは「ブッ」を持って「金の時計」をもらいに行こうと思います。

アッ、それからこんど東さんの所になにか送るような時には 忘れずに 山ごぼうの味噌漬にしたいと思っています。

ではまた。

新美賢二